

特定非営利活動法人 日本市民スポーツ海外交流協会
令和3年度 第4回理事会 議事録

- 1.開催日時 令和3年8月18日 午後7:00～午後8:35
 - 2.開催場所 ZOOM会議
 - 3.理事総数 12名
 - 4.出席者数 5名（書面表決書1名）
出席者（山西哲郎、宇佐美彰朗、保原幸夫、小林均、黒田伸 敬称略）
書面表決書（前河洋一 敬称略）
オブザーバー（山本正彦 敬称略）
 - 5.議長選任 議長として山西哲郎氏が選出された。
- 6.議事の経過の概要および議決の結果
- 第1号議案 前回理事会および年次総会（6月24日開催分）議事録に関する件
保原氏から各理事に対し過日メールにて送信し、内容を確認していただいたが、特に疑義等がなかったため承認されたものとする旨報告があった。
 - 第2号議案 議事録署名人の指名について
議事録署名人として宇佐美彰朗氏と保原幸夫氏が選出された。
 - 第3号議案 一時支援金および月次支援金について
保原氏より、緊急事態宣言の影響緩和に係る一時支援金（1～3月分）60万円を7月26日に、月次支援金（4月、5月、6月分）各20万円を8月6日に、それぞれ受給した旨報告があった。これは、緊急事態宣言に伴って平成21年の各月の事業収入が基準年となる平成19年あるいは平成20年に対して50%以下になっている場合に各月最大20万円が該当法人に対して支給されるものである。
現状では、緊急事態宣言が延長されているので、解除されるまではこの制度も延長される見込みである。
なお、対象事業となっている「JSIEエコノミカルランニング教室」および「熟年ランニングスクール」では事業収入だけでは講師の交通費さえも賄えない状況なので、当分の間はこの支援金を活用して交通費補助をしたい旨の提案があり、承認された。
 - 第4号議案 2021メルボルンマラソンについて
保原氏より、大会本部に現地の状況を確認したところ、大会自体は開催予定であるが、現時点では大会当日までに海外からの参加者の入国は許可されそうもないとのこと。
したがって、日本事務局としては大会参加を見合わせることにし、参加申込のあった1名の方には参加費全額を返還することにした。

第5号議案 フリーディスカッション

(山西) 東京オリンピックとの関わりについてご紹介ください。

(宇佐美) 個人的には特に係わらなかったが、トライアスロン協会としては大会運営に全面的に協力しました。

(小林) 陸上競技の審判として参画しました。担当は監察員ということで競技者にルール違反がないかの監視でした。WA審判の指導の下に実施されましたが、ルール適用については有力選手やチームはなるべく失格させないように便宜を図るなど、疑問を持つ場面もありました。大会運営を公正・円滑に行うためというよりは、テレビの視聴率を引き上げIOCやテレビ会社からの評価を高めることにより、分配金を少しでも多く獲得したいという思惑が感じられました。テレビ映りを良くすることが最優先されたため、監察審判位置が制限されたり、業務時間以外の競技観戦が禁じられたりされたことも同様の理由であったと思われます。「オリンピック審判ミニ報告」を作成したので、ご一読ください。

(保原) 会場に入っている関係者は「プレイブック」に基づいて感染防止対策を講じていたと思うので、いわゆる保菌者はいないはずなのに、競技中の選手以外にマスク装着を義務づけていたことに違和感を感じたのですが、その辺についてはどうだったのでしょうか？

競技後には選手にマスクが手渡されて、マスクをつけてインタビューを受けていましたが、さすがに呼吸が苦しくなって外していた選手も多くいました。

(小林) 毎日、PCR検体を提出することにはなっていましたが、実際の運用はそうでしたね。新型コロナウイルス対策として、残念ながら事前合宿先のホストタウンなどでも選手達と住民の交流はできませんでした。

無観客にまでして、バブルを作った開催にもかかわらず、その中でも交流が制限されていたのは残念でした。

感染していない人だけが入場できる体制にしたのですから、選手同士、審判同士、大いに交流できるようにして欲しかったですね。

(山西) 前回の東京オリンピックの時は・・・私は、今の筑波大学の3年でした。しかし、箱根駅伝の練習に追われて、オリンピックはじっくり見ませんでした。しかし、陸上の長距離に関しては海外に出かけての強化合宿などでトレーニング法やコーチングの科学的研究がなされ、その後、競技力の発展に貢献したと思います。また、市民にとっても大きな刺激となり、市民スポーツがランニングなど中心にして飛躍的に成長したと思います。

(山西) 宇佐美さんは、メキシコオリンピック、ミュンヘン、モントリオールと3回のオリンピックを経験していますが、この期間どのような気持ちでトレーニングをしていたんでしょう。

(宇佐美) この期間を長いと感じたことはなかったですね。テーマを追いかけていくとあっという間に時間が経っていくと感じでした。

メキシコの際は空気が薄いところでの大会ということで、富士山五合目での高所トレーニングに取り組みましたし、その後は、できるだけエネルギーを効率的に使うことを目的に合理的なランニングフォームを身につけることに取り組みました。

(保原) 男子マラソンでは大迫選手が6位に入賞しましたが、前半20Kと後半20Kではランニングフォームがガラッと変わっていました。前半から後半のランニングフォームで走っていたらメダルを獲得できたかも知れないと思っていますが、宇佐美先生はどのように思いましたか？

(宇佐美) そうですね、前半は上体が左右にぶれていたのが気になりました。あれで、かなりエネルギーロスをしていたのではないのでしょうか。ところが、後半になって、前方のランナーを追いかける局面になると上体のブレもなくなり、上半身、下半身のバランスがとれたすごく良いフォームになったんです。東京マラソンで日本新記録を出した時もそうでした。彼がその違いを認識できるようになれば、さらに記録の向上は望まれるんですがね。その辺を大迫君に聞いてみたいですね。

(山本) 陸上競技に限って今回のオリンピックで感じたことは、世界のトップは強い！ということですね。

(保原) その一例として、皆さんとも情報を共有させて頂きましたが、当協会が交流させて頂いているウガンダ選手団が、陸上競技最初の決勝種目10000Mで銀メダルと銅メダルを取ったのは嬉しい出来事でした。特に、3位のジェーコブ・キプリモ選手はイタリアのトスカーナキャンプを訪れた時に一緒に練習し、当時は17歳で5000Mを13分11秒で走っていたので、将来はオリンピックでメダルを取るのではないかとは思っていましたので、嬉しい結果でした。

2018年に当協会が開催した「アスリート育成国際シンポジウム」の際、講演してくれたウガンダチームコーチのジャンプローネ氏は日本選手の能力にかなり注目していて、ジュニア育成に協力したいと言ってくれていますので、彼らのメダル獲得を「トスカーナキャンプでの夏休みジュニア合宿」につなげていきたいと考えています。

(黒田) 競歩とマラソンが札幌で行われましたが、無観客が求められて残念でした。公道を利用しての競技なら、感染対策さえしっかりしていれば、感染のリスクは少なかったはず。現に国内のいくつかのマラソンで感染が広がらなかった。橋本聖子組織委員会会長が、札幌の競技で無観客にするかどうかの判断を鈴木北海道知事に投げてしまったため、結局無観客になりましたが、実際に現場に行ってみると多くの人たちが観戦していました。せめて子どもたちに見せることはできなかったのか、疑問に感じました。それから、国立競技場で期待されていた4×100Mリレーがバトンパスの失敗で失格に終わったことについても疑問を抱きました。バトンが渡らなくても走り続けて、アンカーまで走る、という選択肢はなかったのでしょうかね。

(小林) 予選を最下位で決勝に進んだということもあり、期待に応えるためには完璧なバトンパスをしなければいけないという意識が微妙なずれにつながったのではないのでしょうか？

(山本) 従来、世界はリレーは眼中になかったのが、価値観が変わってリレーにも力を入れて来た感がありますね。そのことが、日本が予選最下位通過という結果を生み出しているとも考えられますね。

(保原) いろいろな世論がある中で、今回のオリンピックは開催されました。なかなか、コロナ騒動が収束しない中で、我々の協会の趣旨でもあるスポーツを通しての国際交流はどのように進めていったら良いと考えますか？

(山西) 10年以上前になりますが、オーストラリアのダーウィンで行われたアラフラゲームズに3回ほど当協会が窓口となって日本選手団をつくって出掛けました。ビギナーからオリンピック選手、そして、障がい者も参加して、まさに、SPORT FOR ALLの大会でした。今こそ、このような大会が開催されるように、私たちも普及活動をしたいものです。

(保原) アラフラゲームズについては、政権交代の事業見直しで2013年以降は中止となっていて2019年に再開されたのですが、新型コロナウイルスの影響で2021年は中止となり、つい先日2023年も中止という連絡をいただきました。

2005年～2011年の間、当協会が日本選手団の派遣窓口だった関係もあり、2019年に再開する際にはスポーツ庁を通して選手派遣の依頼がありましたが、残念ながら参加希望者がなく、派遣選手はゼロという結果でした。

2025年以降、大会が再開したとしても、現在は2011年以前と違ってノーザンテリトリー政府からの経費援助がありませんので、スポーツ庁等への資金援助要請がおおきな課題となってくると思います。

(保原) 前述の「トスカーナキャンプでの夏休みジュニアキャンプ」については、進め方について検討中ですが、陸連のジュニア育成プログラムと連携した取り組みが必要だと考えています。HPを見てもよく分からないし、どこに問い合わせをすれば良いかも分からないのですが、ご存知の方はいらっしゃいませんか？

(小林) 陸連では、ダイヤモンドアスリートプログラムを作成し、それに基づいて育成を図っていると思いますが。

(保原) 確かにダイヤモンドアスリートを指名して育成しているようですが、順調にしているようには思えません。育成方法の提案などはどのようにすれば良いのでしょうか？

(小林) 陸連に担当窓口があると思うので、そこに問い合わせしてみるのが良いのではないのでしょうか？

(山本) 選手強化も大事ですが、良いスポーツ界を作るかについても考えていきたいですね。

第6号議案

その他

■新入会員の自己紹介

ー山本正彦氏

神奈川県厚木市在住。東京工芸大学で運動生理学を研究し、ランニングの指導を行っている。協会にお手伝いできることがあれば積極的協力したいと思う。

■HPの整備・活用について

保原氏より、前回に引き続き下記項目の依頼があった。

ーオピニオンコーナー「～スポーツで世界がつながろう～マイ・オピニオン」への投稿。

今回のフリーディスカッションで話した内容などを原稿にまとめて投稿してほしい。

■年会費納入について

現時点での年会費を納入して頂いた方は16名で、未納入の方は3名となっている。

■次回理事会について

9月22日(水)19時から、東京2020の感想なども踏まえ、出口の見えない新型コロナウイルス騒動下でのスポーツ交流のあり方などについてフリーディスカッションをすることになった。

以上をもって議案全部の審議を終了したので、午後8時35分議長は閉会を宣言し散会した。

上記の議決を明確にするため、議長及び議事録署名人において下記に署名・押印する。

令和3年8月18日

特定非営利活動法人 日本市民スポーツ海外交流協会

議長

山西哲郎



議事録署名人

宇佐美彰朗



議事録署名人

保原幸夫

